

RES-P 工法に用いるパイプには、両面に溶融亜鉛めっきによる防錆処理が施されている。溶融亜鉛めっき被膜は密着性に優れており、通常の取り扱いにより剥離・損傷することはないと言われている。

パイプの製作時や打設時に、次のような場合、亜鉛めっき済みのパイプを切断することがあり、小口では素地（鉄）が露出する。

- ・短いパイプの製作を目的として、長尺パイプを切断する場合
- ・硬質層や障害物のため、設計深度に達する前に貫入不能となり、パイプ頭部を切断してレベルを調整する場合
- ・硬質層への打設を容易にするために、打設前にパイプ先端をV字に切込加工する場合

このような場合も、溶融亜鉛めっきには犠牲防食作用があるため、小口の腐食については、対策は必要ないと判断している。

ただし、気中にある鉄は腐食しやすいので、切断面が気中に曝される懸念がある場合には、防錆塗料を塗布するとよい。